

四日市市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、米を主体に転作作物として小麦、大豆、また、都市近郊という立地をいかし、花き、野菜等の生産が行われている。だが、近年、農業者の高齢化が進み、耕作放棄地が増加しつつある。

今後、主食用米の需要が減少する中、他作物への作付転換、担い手への集積を進め、水田面積の維持を図っていく必要がある。また、需要のある麦、大豆においては、排水、土壌改良等により、収量を上げ、品質を向上して、ニーズに対応した生産に取り組んでいく必要がある。

2 作物ごとの取組方針

市内約2700haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら作物生産の維持、拡大を図る。

(1) 主食用米

前年の需要動向や集荷業者の意向を勘案しつつ、米の生産数量目標に沿った米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、県内の需要者と連携し飼料用米の需要拡大を図る。また、産地戦略枠等を活用し、団地化等による低コスト化や、多収品種の導入に取り組み、飼料用米の生産面積の拡大を推進する。さらに、作付ピークの分散に取り組む。

イ 米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、小麦代替用として県内の需要者と連携し需要拡大を図る。産地戦略枠を活用し、団地化等による低コスト化を図り、多収品種の導入による作付けピークの分散、米粉用米の生産拡大を図る。

ウ 加工用米

地域の農業協同組合と協力して生産の拡大を図る。また、地元の実需者とも契約の推進を図り、需要の拡大を目指す。

エ 備蓄用米

主食用米と同様に取り組める作物として、現行の作付面積を維持・拡大していく。

(3) 麦、大豆

産地戦略枠を活用し、団地化及びブロックローテーションの推進により、低コスト化を図る。小麦については、ニーズのあるあやひかりの品質向上、単収増加を図る。

(4) 飼料作物

作付面積の維持・拡大、生産性の向上を図る。

(5) そば、なたね

作付面積の維持・拡大、生産性の向上を図る。

(6) 野菜、花き・花木、果樹、地力増進作物、景観形成作物等

地元の需要に応じた販売を目的とした生産に取り組めるよう、地元農業協同組合等と協力して、地産地消の推進を図る。また、農地の有効活用と農業生産力が維持できるよう取り組む。

(7) 不作付地の解消

現行の不作付地約300haについて、転作作物の作付けにより解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1 7 2 7 . 0	1 7 0 0	1 7 0 0
加工用米	2 3 . 0	3 0	3 0
備蓄米	3 . 8	1 0	1 0
米粉用米	4 . 1	8	1 1
飼料用米	6 . 0	5 0	5 7
WCS用稲	0	8	1 1
麦	3 8 3 . 9	4 0 0	4 0 3
大豆	2 7 8 . 5	3 1 0	3 1 0
飼料作物	2 0 . 8	2 0	2 0
そば	1 1 . 5	1 5	1 5
なたね	2 . 8	3	3
その他地域振興作物	2 3 9 . 5	2 5 3	2 5 3
野菜	1 3 0	1 3 0	1 3 0
花き・花木	1 5	1 5	1 5
果樹	1 6	1 6	1 6
地力増進	7 0	7 0	7 0
景観形成	2	2	2
その他	2 0	2 0	2 0

4 平成 28 年度に向けた取り組み及び目標

取組番号	対象作物	取組内容	分類	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (目標値)	28 年度の 支援の有無
1	麦	低コスト化の 取り組み	イ	実施面積	370ha	390ha	有
2	大豆	低コスト化の 取り組み	イ	実施面積	250ha	270ha	有
3	新規需要米 (飼料用米、 米粉用、WCS 稲)	低コスト化の 取り組み	イ	実施面積	9ha	55ha	有

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取り組みに該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取り組み

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取り組み

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取り組みを行いながら付加価値の高い作物を生産する取り組み